

## 地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

### I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

### II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

### III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

### IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
  - (1) 一人ひとりの尊重
  - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
  - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
  - (4) 安心と安全を支える支援
  - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
  - (1) 居心地のよい環境づくり
  - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

### V. サービスの成果

#### ※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

#### ※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 敬愛グループホーム

ユニット名 \_\_\_\_\_

自己評価実施年月日 平成 20年 2月 15日

記録者氏名 小松 一道

記録年月日 平成 20年 2月 17日

## 自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
<b>1. 理念と共有</b>				
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	入居者はその人らしい日常生活が安心して送ることが出来るよう配慮され、職員と共に家庭的な生活環境を作り上げることを目標にして地域生活の継続支援と事業所と地域との関係強化に取り組んでいる	○	「地域社会の一員である。」という意識がいつも持てるよう地域住民との交流の場を持つよう取り組んでいきたい。又、これまでの理念を見直し地域や利用者のニーズ、事業所の状況の変化によって現状にあった理念に作り変えていくことを検討している
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が実践に活かされるべく毎朝のミーティングの中で確認し合うようにし、一人ひとりの入居者を中心とした「その人らしい生活支援は何か」をテーマに常に情報の共有を図っている。	○	スタッフ間で理念の共有が常になされており、そしてそれらが実践されているかについて、振り返りながら掘り下げて意見の統一を図るよう取り組んでいきたい。
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	玄関に入った目のつくところに理念を掲示して地域の方、ご家族や関係者がこられた際、気軽に理念について話す機会を持つようにしている。又、自治会との交流の場でホームについて説明する機会を頂くなどしている。	○	地域自治会への参加協力を進めているところでグループホームがどのようなところかを出来るだけ地域住民に知っていただける機会を作るよう努力している。
<b>2. 地域との支えあい</b>				
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	入居者が自然な形で地域に溶け込んで生活している。例えば日常的な散歩や買い物は馴染みの関係の延長線上にあることを意識する関わりを地域の方々に受け入れてもらっている。(さりげない挨拶や会釈)	○	近隣の方々との日ごろの挨拶を交わしたり話をするなど触れあう機会を多く持ち関係を深めたり築いて行くようさらに取り組んでいきたい。
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の自治会への参加交流を始めたばかりである。自治活動の作業協力など行う。一方で事業所の実践などを説明する機会をいただくなど双方向の関係に取り組んでいる。	○	更に事業所が地域の中に自然な形で生活していけるよう地域との交流や絆を深められる活動に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	事業所での実践活動を通して認知症ケアの啓発への取り組みを行い民生委員や自治会役員との定期的な交流の場を設け地域に対して事業所として何ができるのかを考えている。	○	今後、介護予防への啓蒙活動への取り組みとして地域住民を対象に認知症の理解や接し方の勉強会や相談などの地域と一体となって活動できるよう取り組んでいきたいと考えている。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員間ではきずかない問題点を指摘してもらおう有効なシステムである。うまく活用してサービスの向上に役立てたい。又、外部評価の結果を報告し、改善に向け具体案の検討や実践につなげる為の努力をしたいと考えている。	○	指摘される評価は事業所の関係者のみならず地域の評価へとつながる大事なシステムとしてとらえ改善計画を立てて、その実施に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	一方的な説明会の場となっていないか注意し、双方向の意見交換の場として有効に機能するよう意識しながら話し合いを進めている。又これまでの評価結果を踏まえ、現在取り組んでいる内容についても報告し意見をもらうよう取り組んでいきたい	○	運営推進会議で外部評価の結果を公表して事業所の取り組みや改善経過のモニター役と捉え評価と運営推進会議を一体的に活用したいと考えている。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの職員や介護保険課の職員に運営推進会議への参加をいただいております。会議を通して運営上の相談をすることもあり不十分とはいえ連携を図っている。又事業所を活用してもらい、職員や利用者との交流を図っている。	○	今後に向けてあらゆる機会を通して更に連携を強化していきたいと考えている。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	管理者は研修の機会を通して制度を学び職員への伝達講習を行っている。又今後入居者家族等に制度についての情報提供ができるよう理解を深め取り組んでいきたい。	○	徹底した権利擁護と高齢者の尊厳を守っていく決意を持ち職員間で制度の理解を深め情報を共有し活用できるシステムを整えたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	管理者や職員は研修等の学ぶ機会を出来るだけ多く持ち、虐待に対して常に高い意識を持ち、考えることが出来る介護者であり、常に実践の振り返りを行い防止に努めている。	○	虐待行為を発見した場合の対応方法について事業所内で周知徹底されるよう環境を整備し、今行っている介護実践の姿勢や態度を常に振り返りながら身体拘束や施錠、権利侵害に関する考え方を整理し日常のケアにつなげたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約等の場面に際しては入居者、ご家族に対して書面に頼らずわかりやすい言葉での説明を重視し、特に利用料金や起こりうるリスク、重度化の問題や見取りについての対応、医療連携体制の実際などについては詳しく説明し同意を得るようにしている。	○ 利用者の状況が変化し契約解除に至る場合もありうる事も含めて本人を交えながらご家族等と今後の対応方針について相談したいと考えている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者、ご家族との信頼関係を図りながら問題点を率直に伝えることが出来る環境であるか点検しタイムリーに話し合いが出来るように努力し日々のケアに活かされる様努力している。	○ 入居者本位のケアがなされ業務本位となっていないかなど介護相談員などの訪問を受け入れ、利用者の相談を受けてもらうなど常にチェックできるシステムづくりに努めたい。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の交流を密にし、なんでも相談していただけるような信頼関係を図り、月に一度ご家族の方が訪問される機会がありその機会を有効に活用し個別に生活場面を中心に報告したり小遣い帳をチェックしていただいている。	○ 入居者の日常の生活ぶりが伝わるようなホーム便りを発行しご家族のみならず地域に対して情報を発信していきたいと考えている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問時には必ずなんでも相談していただけるよう信頼関係作りに留意している。そして出された意見や要望はタイムリーに話し合いを行い、ケアや運営に反映するようにしている。	○ ご家族の意見・不満や苦情等を運営に反映させるため外部者の苦情や意見を真摯に受け止め、その発生要因を探り、課題を検討資質の向上を目指せる様取り組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一回定期的に行っている全体ミーティングの中で率直な意見交換ができる雰囲気作りにつとめ、日頃よりコミュニケーションを十分にとることを心がけているが不満や苦情は言語化しにくいこともあり把握しきれていない可能性もある。	○ 事業所の運営や大事な決定事項に関して、利用者の状況や日々のサービスの実情を直に知っている現場の職員の意見を十分聴き、生かしていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の自由な暮らしが出来る限り支えられるように限られた人員の中でシフト調整は難しいこともあるが、スタッフ間で柔軟に対応し業務に支障が生じないように努力している。	○ 今後、業務拡充を視野に入れ職員数の増強を検討している。入居者の生活の質が守られ、職員との馴染みの関係が継続されるように余裕のある人員配置の実現に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	本年度は2名の離職に伴う人員交替があり、利用者やご家族への信頼関係が損なわれないよう馴染みの関係を重視しながら離職の時期や引継ぎの面で最善の努力と手当をして、利用者のダメージを最小限にとどめるよう取り組んだ。	○	離職に関しては個人的理由による所が大きいものでその対応はきわめて難しい。しかし、事業所としては最小限に食い止めていく努力と義務があると考えている。
<b>5. 人材の育成と支援</b>				
19	○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県社会福祉協議会で開催されている介護職研修、その他専門職研修を利用して年間計画に乗せスタッフのレベルに応じた個別計画を立てて出席してもらい、研修後、事業所内での研修報告とあわせて伝達講習を行ってもらい研修内容の共有に取り組んでいる。	○	施設内害の研修に積極的に参加をし、自己研鑽を図ることは介護にたずさわる者として義務である。そうした個々のスキルアップが職場全体のスキルアップにつながっていく環境づくりに積極的に取り組んでいきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	高知県宅老所・グループホーム連絡会には加入し、質の向上に励んでいる。又、研修会を通して同業者のネットワーク作りに積極的な取り組みをしている。	○	香南市、香南市のグループホームを対象とした交流勉強会を有志を中心として立ち上げられており積極的な意見交換(勉強会・事例検討会)を通して事業所外の意見や経験をケアに活かしている。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	日常的に介護現場の現状を肌で感じている職員のストレスや悩みを表現することができ、伝えられる場がある。そうした組織としてのシステムづくりに取り組んでいる。	○	きちんとした知識とスキルの習得が何よりもストレス軽減につながる。ストレスマネジメントに取り組む以前にそうした取り組みの強化を図りたいと考える。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	頻繁に現場に顔を出し利用者や過ごしたり、個別に職員の業務指導や悩みを把握しながら、職員個々のスキル向上に向け各種資格取得の奨励をし、努力に見合った評価を行っている。	○	職員が向上心をもって働けるよう労働環境づくりを更に進める努力をしている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	事前面談や初期の面談からまず信頼関係を築くことを目標に心身の状態やさまざまな思いと向き合いながら不安を取り除き、受け入れられるよう努力している。	○ 初期の関係づくりや対応はその後を左右する大事な時期であることを十分に把握した対応で望みたいと考える。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居者と同様に初期の関係づくりは重要との認識の上に立ち、ご家族の求めていることや事業所ができることなどを事前に話し合いその思いに理解を示し受け止める努力をしている。	○ 体験した家族の苦労やこれまでの経緯を傾聴し安心して話すことができる雰囲気作りにつとめたい。
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	信頼関係に配慮しながら正確で詳細な情報収集を行うと同時にご家族の思いや状況を確認しながらどのような支援が必要であるか提案しサービスにつなげるようにしたい。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりホームでの生活を余儀なくされた場合には、できるだけ関わっていたご家族や関係者に来てもらうなどして安心していただけるよう最大限の努力をしながら事業所の生活が早期に安定するよう積極的に取り組んでいる。	○ 本人の納得を得ないまま心理的不安を抱えたまま利用にいたることがないように、可能な限り体験入所を通して本人やご家族に事業所を見学していただくことから始め、徐々に本格的な事業所での生活を目指し安定的な利用に移行させるよう取り組んでいきたい。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の思いや苦しみ、不安、喜びに共感し理解を示す姿勢を大切にしながら日々の生活の中で分かち合い共に支えあう関係づくりに努め、支援する側、される側の関係にとらわれることなくお互いが共同しながら生活していくことに積極的に取り組んでいる。	○ 事業所の理念に掲げているように入居者を「尊敬と愛情」をもって接するという考えを職員は共有し、支援の方向性を決定付けている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員はご家族の思いに常に寄り添い、入居者の様子をきめ細かく伝えながらご家族と同じ思いで入居者を支えている事を伝え、ご家族と職員との信頼関係の強化につながるように取り組んでいる。	○	ご家族は入居者の生活を共に支援している対等な関係であり、ご家族が事業所にゆだねきりとなったり、逆に職員が抱え込んでしまわぬよお取り組んでいきたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族の入居者に対する思いや入居者のご家族への思いを十分に受け止めながら両者の思いの接着剤としての役割を職員が果たせるよう、積極的に取り組んでいる。	○	入居者の日ごろの状態をこまめに報告・相談し関係性が希薄とならないよう努め、来訪時には入居者とご家族との潤滑油となるよう心がけている。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ホームに入所しながら今までの生活の延長線上にあるよう、行きつけの美容院の利用継続や墓参り、地域で暮らす馴染みの知人や友人との継続的交流への支援に取り組んでいる。	○	行きつけの場所と入居者が付き合い続けられるよう実際に会いに行ったり来てもらったり、あるいは出かけていく場面を積極的に作っていきたい。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	個々の利用者のお話をうかがったり、相談に乗ったり、又入居者同士楽しく過ごせる時間の共有につとめ、入居者同志のよりよい関係性の接着剤としての役割りを積極的にはせるよう努力している。	○	入居者同士の関係性について職員は、情報の共有をはなり、入居者同士の関係が円滑になるような働きかけをしていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービスの利用が終了してもイベントへの招待をするなどの継続的な付き合いができるようしている。入院などやむを得ず退所になった場合でも、病院に見舞いに行ったり、ご家族とお会いする機会があれば近況を話し合ったりしている。	○	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1. 一人ひとりの把握</b>			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の日々の暮らしを通して言葉や表情の裏にメッセージ的に発信されている思いや意向を職員は敏感に感じ取る努力を行いそれらの情報は職員間で共有され入居者個々に反映されるよう努めている。	○ 思いや意向の表現ができない場合や意思疎通が困難な入居者の場合ご家族や職員の思いや意向で肉付けを行う場合もあるが職員の自己満足に陥らないように気をつけている。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活史などを把握することの意味や重要性を十分にご家族等に説明して入居者のケアに活かすという目的とプライバシーへの十分な配慮を忘れないよう取り組んでいる。	○ アセスメントシートにセンター方式を導入しケアマネジメントに取り組んでおり現在の所十分な取り組みはできていないものご家族の協力を得ながら努力している。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居者の日常生活を断片的に捉えるのではなく流動的に捕らえることを意識しながら心身の両面から入居者の全体像として捉えるよう努力している。。	○ 見落とされやすい入居者のセルフケア能力をきめ細かく日々の暮らしの中から発見していくことに努めたい。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	その人らしさを重視したケアのあり方について入居者本人、ご家族、職員間で情報や意向を確認し反映させるようにしている。職員全体で意見の交換やモニタリング、カンファレンスを行いアセスメントにつなげている。	○ 画一的な計画になりやすいが個別的で具体的な計画作成に努力し、地域でその人らしく暮らし続けるにはどのような支援を必要とするのか考えていきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	モニタリングを有効に使った微調整プランにより援助過程を循環させているがあくまでも援助者中心のプランではなく本人、ご家族中心のプランを重視している。	○ まだまだ十分なプラン作成になっていないのは非常に残念である。日々の援助活動を通して後からついてくる形のプランからプラン先行の努力をしていきたい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録とあわせて毎日の申し送りの充実を図り日々の支援の流れを重視した実践活動における情報を共有しアセスメントにつなげている。	○	漫然とした経過記録や、やったことだけの記録にとどまらない事実やケアの気づきを生き活きと具体的に記する取り組みをしていきたい。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	多機能施設のような対応はできないが入居者やご家族の状況に応じて通院や送迎など必要な支援は柔軟に対応して個々の満足度が高められるよう努力している。	○	ホームで行われている介護実践を基礎として地域のニーズにあった多機能のサービス提供が可能になるよう、地域に密着した事業所の展開を検討している。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	入居者が安心して暮らしを続けられるようにネットワーク作りへの働きかけとして地域自治会への参加を基盤として民生委員さんとの協力体制をとりながら地域への浸透を推し進めている。	○	地域に開かれたホームの姿を発信するため開始したばかりで十分な体制とはいえないが、さらに発展的な取り組みを開始したいと考えている。今後、入居者と地域の接点を見出し周辺施設への働きかけやボランティアへの協力を考えたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	ネットワークを通して同業者との交流会を立ち上げ情報交換の場として活用しながらよりよいサービスの提供や利用を目指したり、外部のケアマネと連携を図り情報交換をするような取り組みを始めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加するようになり、これをきっかけに様々な機能の活用ができることを期待したい。	○	今後、ホームで起こった困難事例や事業所内で解決できない問題を地域包括支援センターと協働しながら本人本位の支援につなげていきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望するかかりつけ医となっており、また受診や通院は基本的にはご家族の同行の受診となっているが入居者やご家族の希望に応じて対応している。	○	事業所の協力医の他、利用前からのかかりつけ医での医療を受けられるよう、ご家族と協力し通院を行うなど複数の医療機関との関係を密にして取り組んでいる。
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症に詳しい精神科医との連携を持ち必要に応じて適切な指示や助言を頂けるようにしている。又管理者は、18年度『かかりつけ医認知症対応力向上研修会』への出席など専門職としてのスキル向上に努力している。	○	専門医ばかりか認知症関連の専門職との連携に努め入居者への支援につなげられるよう取り組んでいきたい。
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員を配置し、常に入居者の健康管理や医療面での相談・助言・対応にあたるなどホームでの看護職として役割りがうまく機能が発揮できる体制を取っている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	病院が母体であるという強みを有効に活用し、認知症のお年寄りに限らず医療機関への入院は心身に重大なダメージを与えるため可能な段階で早期退院につながるよう医療機関との連携を深め十分な支援体制をとっている。	○	入院時には頻繁に職員が見舞うようにし御家族とも情報交換をしながら、回復状況を見て速やかな退院の支援へとつなげている。
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化について、入居者本人やご家族と日頃より対応しうる最大の支援方法について説明をし、十分なコンセンサスを取っておくよう努めている。	○	重症化に伴う意思確認書や医療連携体制の指針についてご家族や医師を交えて話し合いを行う必要があり、状態の変化があるごとに本人やご家族の思いに注意を払い支援につなげていきたい。
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	本人やご家族の意向を踏まえ、医師や職員が連携を取りながら安心して納得した最期を迎えられるように随時意志を確認しながら取り組んでいきたい。又看取りに対する考えや思いを職員間で共有されるように取り組んでいる。	○	ホームで看取りまで対応するという方向性の中で内部資源のスキルアップが求められている。そのためにも看護師の直接的な技術力とアセスメントの向上、急変時の医療機関の対応、介護との連携を更に深める為の取り組みをしていく必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止  本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えは「生活圏域」の中で提供されるようにしていくことを第一と考え次の場所でも切れ目のないサービスが有効に提供されるべく十分な情報提供ができるシステムの強化に取り組んでいる。	○	移り住むことのダメージを最小限に食い止められるようこれまでに生活環境や支援の内容、注意点についてきめ細かな情報提供を行いながら連携が蜜となるように取組んでいきたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>				
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>				
50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃、入居者及び関係者のプライバシーについて十分配慮された環境づくりに努め排泄や更衣、入浴などの際プライバシーへの配慮、声掛けのタイミングなどについても、自尊心に配慮した取り組みを行っている。	○	個人情報管理規定などの整備を行い職員の入社時の契約事項のひとつに入れており、折に触れては職員の意識の向上を図るとともに、入居者に対する職員の日常的対応が入居者の誇りを傷つけプライバシーを損ねるものになっていないか常に点検し徹底していく。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援  本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日常生活のさまざまな場面で入居者の選択とか希望、願望あるいは試みに対して可能な限り配慮し、入居者自身が決める場面を作ることを尊重した自立支援に向けたケアに取り組んでいる。	○	権利擁護の観点から言えば本人の意思を導き出すということであって本人に代わって代弁したり決定したりすることではない、ケアの倫理観をスタッフ間で確認しながら取組んでいきたい。
52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的には一日の流れや日課は決まっているが一人ひとりの体調に配慮しながら、その日その時の入居者の思いや気持ちを尊重し個別的な支援をするよう取り組んでいる。	○	入居者の生活が日課に縛り付けられていないか時々外れる機会が与えられているかどうか振り返りながら入居者のペースを守るための工夫に取り組んでいる。
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>				
53	○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	身だしなみやおしゃれが職員側の価値観や一方的な支援ではなく、個々の生活習慣に沿った支援を考え、時には本人の馴染みの理美容院でカットしてもらったり、希望で訪問理容を受けたりしている。	○	自己決定のしにくい入居者については職員が一緒に考えご家族や入居者本人の気持ちに沿った支援に心がけている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	いつも入居者のご家族から頂いている新鮮な季節の食材で作られた食事で入居者と職員とは同じ食卓を囲んで同じものを食べるよう心掛けている。
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	職員は入居者の嗜好品を理解するよう努め、楽しめる機会が多くもてるように支援していきたい。しかしタバコについては該当者がいない事もあり現在のところ全面的に禁止にしている。
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	「トイレで排泄をすること」を基本としてオムツは補助的道具としての考えにたって可能な限りトイレでの排泄を心掛けている。
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	職員が一方的に決めるようなことはせずその日の入居者の希望や体調を予定と確認しながら行うようにしているが夜間の入浴など可能であれば検討していきたい。
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	○	その人に合った睡眠と休息であったり、活動であったりすることをよく知り、画一的な対応にならないように工夫しながら取り組んでいきたい。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	さまざまな支援をとおして入居者がその人らしい姿を取り戻すことができ、そうした姿に触れることで個々の職員が仕事に対する考えややりがいを深め、関わりのあり方やケアのあり方への気づきを深めることにつながるよう取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に 応じて、お金を所持したり使えるように支 援している	小遣いの運用はほとんどの場合事務所管理として 頂いているが必要な時や買い物等は直接入居者が 支払えるよう支援し、いつでも使えるお金を持っ ているという安心感や満足感に配慮した取り組み をしている。	○	
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひと りのその日の希望にそって、戸外に出かけ られるよう支援している	季節感を味わい、心身の活性につながるように日 常的に散歩、買い物あるいはドライブが楽しめる よう支援している。又、外出場面を利用者と職員 の気分転換やストレスの発散、五感刺激を得られ る貴重な機会と捉え積極的に取り組んでいる。	○	たとえ歩行困難なケースであっても工夫して可能 な限り戸外に出すように心がけている。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けな いところに、個別あるいは他の利用者や家 族とともに出かけられる機会をつくり、支 援している	入居者の希望の場所や馴染みと深く変わりのある 場所への外出の機会を持てるようご家族の協力を 頂き叶えられるよう取り組んでいきたい。	○	一人ひとりの思いや願いが叶えられるように、利 用者、ご家族などと相談し、協力を得ながら実現 に向けた取り組みをしていきたい。
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をし たり、手紙のやり取りができるように支援を している	入居者のご家族には事前に相談した上で入居者が 電話をする機会を作ったり電話をして頂いたり、 電話がかけられない場合は職員が取り次ぐなど必 要な支援は行い、また自分で製作した絵手紙に近 況をしたためご家族に送るなどの支援に取り組ん でいる。	○	電話は入居者がいつでも使えるように目に触れる 場所に置くなどの配慮をしている。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人 たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地 よく過ごせるよう工夫している	入居者への面会時間については特に設けずご家族 や関係者の都合のよい時間帯に来ていただけるよ うに配慮しており常識の範囲内で行われるように 説明させていただいている。	○	他の入居者に気兼ねをすることなく過ごしてい ただける面会用のリラックスできるスペースを整え 居心地のよい空間作りをしていき「また来ようか な」とおもえるよう心がけていきたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指 定基準における禁止の対象となる具体的な 行為」を正しく理解しており、身体拘束を しないケアに取り組んでいる	高齢者の権利擁護や身体拘束に関する勉強会とし て職員の施設内研修に取り組んでいるひとつの テーマであり、日常的に考える場面を設定して話 し合い持ち意識の共有を図っている。	○	入居者一人ひとり、その人の人権を守るとい うことがケアの基本であるという認識に立ち徹底して 守っていく姿勢で取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>安全管理上、夜間の施錠は認めているものの、それ以外の施錠はしないという基本的ルールのもとで取り組んでおり、入居者の安全面での配慮には十分に注意しながら、自由な暮らしが支えられるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>利用者の安全の確保といかに行動の自由を保障することが出来るのか、その追求こそが専門性だと考え支援している。</p>
67	<p>日中は、さりげなく入居者の状態が把握できるようリビングなどで同じ空間を共有している。又、夜間などは時間的様子観察などをして入居者の小さな変化も見逃さないように心がけている。</p>	○	<p>見守りの必要性を優先するあまりプライバシーが損なわれるような対応がされていないか十分な注意を払い取り組んでいきたい。</p>
68	<p>入居者一人ひとりの状態や希望に応じて危険を防ぐ取り組みを行っている。私物については状況に応じて入居者、ご家族で必要なものであるのかどうか話し合い、判断して対応するよう心がけ、場合によってはお預かりすることもある。</p>	○	<p>一人ひとりの入居者の状況に応じた危険物の扱いを検討し、画一的な対応にならないように心がけている。ヒヤリハット事例を報告書などにまとめる作業はされていないのですぐに取り組んでいく課題である。</p>
69	<p>自由で生き生きとした生活の維持と危険リスクは裏腹であることを了解した上で事故防止に取り組むためには職員の気づきが不可欠であり、その気づきを強化する取り組みを日常的に行うよう心がけ、一方でご家族とリスクについての十分な話し合いを行うようにしている。</p>	○	<p>今後、事故やヒヤリハットの報告に関する報告、記録がきちんと整理・保存され事故防止策を具体的に検討するように十分な取り組みをしていきたい。</p>
70	<p>急変時や事故発生時の対応マニュアル作りを行っている段階で作成の急務に取り組んでいる。今後、マニュアルの整備と周知徹底を図っていきたい。</p>	○	<p>地域のネットワークを活用して、救急の手当てや救急蘇生法の研修を実施し、全ての職員が対応できるようにしたいと考えている。</p>
71	<p>現在、火災マニュアル、災害マニュアル等の整備に取り組んでおり、又、火災を想定した訓練の実施を地域の自治会や消防と連携を取りながらその実施に向けて取り組んでいる。</p>	○	<p>災害に備えた食料や水その他の災害時の必要備品の準備を考えていきたい。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	リスク管理についてはご家族と折に触れ話し合う機会を持ち、入居者が主体的に生きるということがリスクと隣り合わせであることは積極的に説くようにしている。	○	ご家族が安全を優先することを当たり前のことである。そのことを十分理解したうえで、自由な暮らしの継続の大切さと事業所の取り組みを丁寧に説明し、理解が得られるよう努めている。
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃より看護師が中心となり入居者の健康状態をきめ細かく把握し変化には敏感に対応している。又、定期的に主治医の往診が行われ継続的な健康管理がなされている。	○	24時間、365日切れ目のないサポートが提供されるよう母体病院との連携が効果的に働くようなシステムづくりに取り組んでいる。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局の薬剤師との連携を取りながら看護師による管理のもと入居者個々の内服薬については把握され又他の職員にも説明をしながら情報の共有に努め異常があればすぐに報告され対処できるよう慎重に行われている。	○	服薬支援は管理から服薬までの一連の支援であり、抜かり、誤薬のないシステムづくりに取り組んでいる。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘に対して原則として下剤の使用はせず十分な水分補給と食事、食材の工夫、排便習慣を取り戻すことにより、ほとんどの場合便秘の問題は解消されている。	○	プライバシーに十分配慮された上で排泄のチェックがさりげなくされるよう取り組んでいる。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケア実施がぬからないように注意しながら、もしも口腔内のトラブルが発生してもすぐに歯科治療が受けられるよう地域の歯科医との連携に努めている。	○	口腔ケアの重要性を、全職員が研修を通して理解し、肺炎の予防につながるきちんとした技術を身につけられるよう積極的に取組んでいきたい。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況を毎日チェックし、情報の共有をはかりながら一人ひとりの嗜好や栄養バランスに配慮した食事の提供に心がけている。	○	食の重要性を理解し、食習慣や日頃の様子を観察しながら柔軟な支援を日常的に積み上げていくよう取組んでいきたい。また専門家の意見を聞きながら摂取カロリーや栄養バランスなど具体的な数値など把握していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	ホーム独自のマニュアルの整備に取り組んでいる所で起こりうる感染症について、職員で学習し予防対策に取り組んでいきたい。	○	事業所で起こりうる感染症のほとんどは外からの持込で発生する為、関わっている職員の個人衛生が非常に問題となってくる。日頃より個人衛生に関しては責任ある対応を心がけるよう取り組んでいる。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	職員の職員衛生に関して研修や勉強会等正しい知識を身につけるよう心がけている。また調理器具、台所水回りの清潔・衛生を保つよう職員で取り決めて、実行している。	○	現在問題となっている食の安全については十分に配慮し安全で新鮮な食材の購入と管理につとめていきたい。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	表玄関からホームを眺めた時落ち着いたある日本家屋で町並みと調和している。家庭的な雰囲気のある玄関はとくに装飾されてはならず自然な造りとなっており、季節感を味わうことができるようプランターに花を植えるなど明るさを演出している。	○	入居者のご家族や関係者、地域の人たち、運営推進会議のメンバーなど外来関係者の感想や気づきを聞きながら場の手入れに取り組んでいきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が多くの時間を過ごす共用の空間は個々の入居者の居心地のよい場所、安心感のある場所となるよう工夫や配慮されるよう取り組んでいる。	○	家庭的で快適な五感刺激を生活の場に取り入れるよう季節感のある草花をいつも玄関やリビングに配し馴染み深い懐メロや静かな音楽を流したり工夫している。職員の感覚や好みで決めてしまわず、入居者と共に自分の住んでいる家だという意識を高めてもらえるようなホーム作りに取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間で他の人の気配を感じながら一人で過ごせる居場所づくりや環境づくりに十分な配慮がされていない、今後取り組んでいきたい。	○	何かにもがごちゃ混ぜにならないくつろげる空間が提供できるよう努力したい。



項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 せるような工夫をしている	ご家族の協力を得ながら居室になじみのもの があれば活かし入居者にとって何よりも居 心地のよい安心できる空間であるよう工 夫をしている。	○	入居者一人ひとりにあつた居室作りを考 えており馴染みの品物にこだわらず考 えている。
84	○換気・空調の配慮  気になるにおいや空気のよどみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大 きな差がないよう配慮し、利用者の状 況に応じてこまめに行っている	空気の入れ替えや温度調節にはいつも職 員は気を配るようにしており、エアコン の使用はその季節に合わせた温度設定 とし必要以上の使用は避け入居者の様 子を観察し、意見を聞きながら決めの 細かな対応に心がけている。	○	各居室や部署に温度計、湿温計を配した うえで換気や空調の調節を考えるよう 取組んでいきたい。
<b>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生 活が送れるように工夫している	生活環境のあらゆる場所で入居者に自立 や安全に配慮された工夫がされるよう 個々の入居者の身体機能の状態を注 意深く観察し状態に応じて生活の環 境の改善に努めている。	○	例えば、重度化に伴い以前は全く必要 でなかった廊下や風呂場あるいは居室 の手すりを増設したり、入居者の状 態に合わせて生活環境の改善に努 めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり  一人ひとりのわかる力を活かして、混 乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるよ うに工夫している	リビングやトイレ、浴室など生活の中 心になっている場所がすぐにわかるよ う常に職員は気を配り場所が分かる ようにさりげなく伝えるなどの対応 を取っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用  建物の外周りやベランダを利用者が 楽しんで、活動できるように活かして いる	ホームの隣で近所の畑の一角をお借 りして野菜作りが日常的に楽しみなが ら活動できるように環境を整備して いる。しかし現在はほとんど手つか ずの状態である。	○	日常的に外出が困難になってきている 入居者や車椅子の方にも外の空気や 景色を楽しめるよう、玄関先で涼ん だり日向ぼっこを楽しんだりちょ っとしたスペースに椅子を用意し活 用している。

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない  基本的に生活の主体者である入居者の、希望や意向に沿った支援を心がけている。又、職員全員の意見として対応やケアの方針などを取り決めプランの見直しを行っている。
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない  多忙な業務の隙間お縫うようにして一人ひとりの援助活動に当たる際、意識してお話をする時間を作るようにしている。
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  他への迷惑行為につながらない範囲内において、入居者の各々がマイペースで過ごすことを尊重している。
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  職員の対応や声掛けによりさまざま感情表出をされる場面はよくある。また入居者間のトラブルにより気まずい険悪な雰囲気となることもあるがおおむね職員のサポートにより生き活きとした生活がなされている。
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  基本的にはいきたいところへいつでも自由に行くことができるということを尊重して対応するよう心がけている。
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  母体となる医療機関を中心にネットワークされた協力医療機関は数を増やしている。日々の健康管理はスタッフの看護師が行い、主治医の定期往診により継続した健康管理がされ、問題があればすぐ主治医の診察、治療受けられる体制である。
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  ホームとして、可能な限りの支援と柔軟な対応ができるよう心がけている。
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない  面会時や必ず毎月一回はお会いする機会があり、入居者のホームでの様子や出来事など積極的に情報提供している。又苦情などにも誠意を持って対応しており信頼関係は築けていると思っている。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①ほぼ毎日のように ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない  運営推進会議の場を通して、自治会との交流を少しずつ進展させ、地域の方々の理解も徐々に広がってきている。
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない  気持ちよく仕事ができる環境整備に努めており、不満ばかりでなく楽しいことも職員間で共有され、お互いが仲良く協力しながら仕事に取り組んでいる
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない  入居者の個々の満足度は決して高いとは思わないが、時々見せるなにげない仕草や喜怒哀楽の表情を見る限り一生懸命生きているんだなと実感している。
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない  個人差はあると思うが面会時の対応や表情から判断して満足度は決して高くはないのではと感じている。

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ※ 「良質な介護を提供し続ける」こと・地域との交流をさらに発展させ、「地域のために貢献できるホーム」を目指しています。
- ※ 職員は「その人中心のケア」を提供する。という視点で日々の介護にあたっています。
- ※ 職員の各種研修への参加について、研修費の会社負担とするなど資質向上に役立つものに対しては積極的に協力しています。
- ※ 職員の勤務は可能な限り希望を取り入れた柔軟な勤務体制をとっています。
- ※ 地域交流に力を入れ、地域の自治会と接点を持ち、会合へ参加させていただき認知症への啓蒙活動や作業奉仕活動への協力をしています。
- ※ 日常の健康管理はスタッフである看護師によりきめ細かくチェックされ敏感に対応しています。更に主治医が定期的に往診し継続的な健康管理を行っています。
- ※ 入居者やそのご家族ならびに職員が、このホームが最良の場所だといえるよう全力で取り組んでいます。